

(作成年月日) 2022年6月15日

(臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体または通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和4年3月10日一部改正。文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、検体・診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。検体・診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名] 浸潤性小葉癌の術前穿刺吸引細胞診における細胞学的特徴の検討

[研究の目的] 乳癌の一種である浸潤性小葉癌は、他のタイプの乳癌に比べ細胞の形の変化が弱く、細胞診という顕微鏡での検査のために採取される細胞の量も少ないタイプの癌です。そのため、手術前の細胞診検査では、悪性と診断することが難しい場合が多いです。この研究では、手術で切除された組織で浸潤性小葉癌と診断が確定した患者さんに行われていた手術前の細胞診検査の標本を顕微鏡でもう一度見直し、浸潤性小葉癌の細胞の特徴を明確し、診断精度の向上につなげていきたいと考えています。

[研究の方法]

対象となる患者さん

手術により乳腺の浸潤性小葉癌と確定診断された患者さんで、2008年1月1日から2015年12月31日の間に、当施設で手術前の乳腺の穿刺吸引細胞診を受けられた方

利用する検体・診療情報

検体：手術で摘出した組織の標本、手術前に採取された細胞の標本

診療情報：診断名、年齢、性別、術前穿刺吸引細胞診標本における細胞学所見(採取細胞量、出現パターン、細胞の大きさ、核形、クロマチン、核縁、核小体、細胞質内小腺腔の有無、核偏在性)、乳腺切除組織における組織学的評価(浸潤性小葉癌の組織学的亜型、免疫組織化学的ホルモンレセプターおよびHER2)

[研究組織]

香川大学医学部 病理病態生体防御医学講座炎症病理学 助教 宮井由美

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部 病理病態生体防御医学講座炎症病理学

担当医師 宮井由美

電話 087-891-2115 FAX 087-891-2116